※2 月 20 日(金)情報解禁　一般前売り開始：3 月 14 日(土)～

公立劇団 SPAC がゴールデンウィークに開催する舞台芸術の祭典

「SHIZUOKAせかい演劇祭 2026」全ラインアップ公開！

SPAC-静岡県舞台芸術センターは、4 月 25 日(土)～5 月 6 日(水･休)を会期とし、「SHIZUOKA せかい演劇祭 2026」を開催いたします。演劇祭の全ラインナップを発表いたします。

SHIZUOKAせかい演劇祭 2026

WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA 2026

〈開催概要〉

アーティスティック・ディレクター：石神夏希

会期：2026 年 4 月 25 日(土)～5 月 6 日(水・休)

会場：静岡芸術劇場、静岡県舞台芸術公園、駿府城公園 ほか

https://festival-shizuoka.jp

主催：SPAC-静岡県舞台芸術センター ほか

SHIZUOKA せかい演劇祭 2026

国内外の優れた舞台芸術作品を紹介する「SHIZUOKAせかい演劇祭」は今年で開催 27 回目を迎えます。**2026 年度の演劇祭では、劇作家・演出家の石神夏希がアーティスティック・ディレクターをつとめ、全てのプログラミングを担います。**石神は、国内外の都市で地域の人々とアートプロジェクトを立ち上げてきた実績をもとに、演劇祭においても地域に根ざした作品づくりや、創作のプロセスに触れる機会を設けるとともに、**アジア地域での新たなネットワークづくりとして、国際交流基金との 3 年間にわたる共同事業「BIOTOPE」を始動**します。「SHIZUOKAせかい演劇祭」の新たな歩みにぜひご注目ください。

全ラインアップ

ヨーロッパやアジアから、社会を映し出す演劇や内なる声に深く潜るダンス、表現の可能性を押し広げるパフォーマンスなど、様々な「せかい」を想像する作品が静岡に集結。それぞれの作品が響き合い、複数の視点が交差することで見えてくる現在地――誰かと話したくなる、思考がひらいていく――そんな対話のきっかけが生まれる、ひらかれた祝祭の場が立ち上がります。

石神夏希演出 SPAC 新作**『うなぎの回遊 Eel Migration』 Eel Migration** P5

バロ・デヴェル**『Qui som?(キ ソ ム)―わたしたちは誰？』Who we are?** P6

テアター・エカマトラ**『マライの虎―ハリマオ』 Tiger of Malaya** P7

アイサ・ホクソン、ヴェヌーリ・ペレラ**『マジック・メイド』 Magic Maids** P8

宮城聰演出 SPAC レパートリー**『王女メデイア』MEDEA** P9

下島礼紗×SPAC 新作ワーク・イン・プログレス P10

『さあ環境に抵抗しよう、死に抵抗しよう。そうさ生に抵抗するのさ、』

BIOTOPE プロジェクト P11

同時開催 **ストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡 2026」** P12

【コアプログラム】

鈴木ユキオ×Stopgap Dance Company(ストップ ギャップ ダンスカンパニー)**『Peace & Quiet(ピース & クワイエット)』**

Collectif Protocole(コレクティフ・プロトコル)**『One Shot(ワンショット)』**

SHIZUOKAせかい演劇祭 とは

公益財団法人静岡県舞台芸術センター(SPAC)では、1999 年に開催された世界の舞台芸術の祭典「第 2 回シアター・オリンピックス」の成功を受けて、初代芸術総監督・鈴木忠志のもと 2000 年より「Shizuoka 春の芸術祭」を毎年開催。2007 年から芸術総監督・宮城聰に引き継がれ、SPAC が活動 15 年目を迎えた 2011 年から名称を「ふじのくに⇄せかい演劇祭」に変更しました。2016 年より「ふじのくに野外芸術フェスタ」と同時開催し、世界最先端の演劇はもちろん、ダンス、映像、音楽、優れた古典芸能などを招聘。SPAC が財団設立 30 周年を迎えた 2025 年に、名称を「SHIZUOKA せかい演劇祭」に変更。「SHIZUOKA」と「せかい」が一体(=)となり、隣り合う人々が互いの「せかい」を共有できるハレの場を目指しています。(2020 年は「くものうえ⇅せかい演劇祭」をオンライン開催)

「せかい」はあなたの隣に住んでいる。

劇場という場所は都市に似ています。

俳優は舞台の上で、初めて出会う誰かに向けて自分の存在をひらく。観客は俳優という他者を覗き込み、たまたま隣り合った人たちと共に物語を立ち上げる。その日に偶然、同じ空間に集まった見知らぬ者同士が「今ここ」ではない世界を想像し、心と肉体を共に震わせる。

本当は似ているというより、似ていてほしい、と願っているのです。劇場が都市に。そして都市が劇場に。目を伏せて乗り込む電車で、互いに聞こえないふりをする街角で。たまたま隣り合った誰かとの間に、そんな瞬間が生まれたらいいのに、と。

かつて「せかい」は物理的に遠くにいる他者でした。でもあらゆる距離が消失しつつある現在、「せかい」は手のひらの上でいつでも見られるのに触れられない他者、そして、すぐそばで暮らしているのに見えない他者になりました。距離が近いほど、自分とは異質な存在と折り合い、共存することは難しくなります。隣人同士の分断は深まり、攻撃は激しさを増すばかりです。わたしたちには資源を奪い合い、正しさを争い合い、相手を消し合う未来しか残されていないのでしょうか。お互いを透明な存在にして、やり過ごすことが平和なのでしょうか。

そんな都市に疲れたら、劇場の椅子に座ってみるのはどうでしょう。わかりあえない孤独を分かち合うこと。共に居ること。共に想像することを諦めないこと。それがユートピアであれディストピアであれ。楽天的すぎますよね。楽天的なふりでもいいと思います。なにせ戦いたい相手は「絶望」なのです。

劇場という場所は、都市に似ていてほしい。都市は劇場に似ていてほしい。だから、今年も演劇祭をやります。わたし／あなたの隣には、いったいどんな「せかい」が住んでいるのでしょうか。

SHIZUOKAせかい演劇祭 2026
アーティスティック・ディレクター
石神夏希

石神夏希　Ishigami Natsuki

劇作家。国内外で、都市や人々の暮らし、コミュニティのふるまいに目を向けた演劇やアートプロジェクトを手がける。ディレクションの仕事として「東アジア文化都市 2019 豊島」舞台芸術部門事業ディレクター、ADAM Artist Lab 2019(台北)ゲストキュレーター、静岡市まちは劇場『きょうの演劇』企画・ディレクター（21 年度）他。SPAC では、2022 年・2025 年『弱法師』(作：三島由紀夫)、『お艶の恋』(原作：谷崎潤一郎『お艶殺し』)を演出、「ふじのくに⇄せかい演劇祭 2024」にて『かちかち山の台所』を作・演出。「SPAC 秋のシーズン 2025-2026」よりアーティスティック・ディレクターとして、SPAC 年間のプログラミングに携わる。

Photo by Makita Natsumi (F4,5)

上演スケジュール

		静岡芸術劇場	静岡県舞台芸術公園		
			野外劇場「有度」	稽古場棟「BOX シアター」	屋内ホール「楕円堂」
4 月 25 日	土	『マライの虎―ハリマオ』 13:00 開演	『うなぎの回遊』 18:30 開演	『マジック・メイド』 16:00 開演	『さあ環境に抵抗しよう、(略)』WIP 16:30 開演
26 日	日	『マライの虎―ハリマオ』 13:00 開演	『うなぎの回遊』 18:30 開演	『マジック・メイド』 16:00 開演	『さあ環境に抵抗しよう、(略)』WIP 16:30 開演
29 日	水・祝		『うなぎの回遊』 18:30 開演	『マジック・メイド』 16:00 開演	『さあ環境に抵抗しよう、(略)』WIP 13:30 開演

		静岡芸術劇場	駿府城公園	静岡市街地	
			紅葉山庭園前広場		
5 月 2 日	土		『王女メデイア』 19:00 開演		
3 日	日・祝	『Qui som?― わたしたちは誰？』 13:00 開演	『王女メデイア』 19:00 開演	**ストレンジシード静岡 2026** 5 月 3～5 日 10:00～19:30 駿府城公園、青葉シンボルロードなど静岡市内	
				静岡市街地から 駿府城公園までの移動型	松坂屋静岡店 北館屋上
				「One Shot」 14:30-15:30	「Peace&Quiet」 17:30
4 日	月・祝	『Qui som?― わたしたちは誰？』 13:00 開演	『王女メデイア』 19:00 開演	「One Shot」 14:30-15:30	「Peace&Quiet」 17:30
5 日	火・祝	『Qui som?― わたしたちは誰？』 13:00 開演	『王女メデイア』 19:00 開演	「One Shot」 14:00-15:00	「Peace&Quiet」 17:30
6 日	水・休	『Qui som?― わたしたちは誰？』 13:00 開演	『王女メデイア』 19:00 開演		

演劇｜SPAC 作品　世界初演

『うなぎの回遊 Eel Migration』

『うなぎの回遊』上：2025 年 4 月オープン・スタジオ
下：2026 年 2 月ワーク・イン・プログレス公演（撮影：鈴木竜一朗）

日時：4 月 25 日(土), 26 日(日),
29 日(水･祝)　各日 18:30 開演
会場：静岡県舞台芸術公園 野外劇場「有度」

上演時間：90 分(予定)　全席自由（整理番号順）
日本語上演（一部ブラジルポルトガル語）／日本語・英語・ブラジルポルトガル語字幕

台本・演出：石神夏希
音楽：棚川寛子
舞台美術デザイン：佐々木文美
音響デザイン：和田匡史
出演：赤松直美、貴島豪、森山冬子、吉見亮(以上 SPAC)
アイラ・ウェンディ、相川アンジェラ、
ペレイラ･ハセヤマ･クレイデ、矢野陽規(以上県民参加者)

製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター
共同製作：フランス国立演劇センター ジュヌヴィリエ劇場
協力：浜松国際交流協会
後援：在浜松ブラジル総領事館、一般社団法人磐田国際交流協会、駐日ブラジル大使館・ギマランイス・ホーザ文化院

静岡に暮らすブラジルにルーツを持つ人々の声と、海を越え移動するうなぎ。
「移動と生殖」をめぐり物語は交叉する。

劇作家の石神夏希が、静岡での 1 年以上にわたるリサーチと対話から立ち上げた新作パフォーマンスを、舞台芸術公園・野外劇場「有度」にて初演いたします。国内外で地域住民と創作する作品で大きな成果をあげてきた石神は、本作では県西部に多く暮らすブラジルにルーツを持つ 10 代から 50 代の 4 名をキャストに迎え、SPAC の俳優と共に本人やその家族へのインタビューを重ねながら台本を創作。静岡での生活、移住に至るまの出来事、仕事や家族史など、これまで公に語られる機会の少なかった声が、舞台の中心に据えられます。

作品の軸となるもう一つのモチーフは、県西部を代表する特産品「うなぎ」。産卵のため日本の川からマリアナ諸島付近の深海まで約 3000km もの距離を行き来し、成長の過程で雌雄が決まる特異な性質をもつうなぎの生態は、今なお多くの謎に包まれ、神話や伝承にも登場する“不思議な隣人”として人類の想像力を刺激してきました。一生の間に長い旅をするうなぎの生態と、さまざまな理由で海を越え移動を繰り返す人々の姿を重ね、「移動と生殖」をテーマに寓話的フィクションを生み出します。2026 年 2-3 月のワーク・イン・プログレス公演を経て、いよいよ世界初演。

◎フェスティバル café & bar ―　Festa Brazil(ブラジル・ナイト)
4 月 25 日(土)、26 日(日) 15:00～22:00／29 日(水・祝) 12:00～22:00
会場：舞台芸術公園 せかいの劇場ミニミュージアム「てあとろん」
＊詳細は P13 を参照ください。

現代サーカス・演劇・ダンス｜日本初演

『Qui som?（キソム）—わたしたちは誰？』 Who we are?

© Christophe Raynaud de Lage

日時：5 月 3 日(日･祝) , 4 日(月･祝)
5 日(火･祝) , 6 日(水･休)
各日 13:00 開演
会場：静岡芸術劇場

上演時間：150 分(休憩なし)　全席指定
フランス語、スペイン語、英語、ポルトガル語、カンボジア語
上演／日本語・英語字幕

作：カミーユ・ドゥクルティ、ブライ・マテウ・トリアス
製作：バロ・デヴェル

身体が語り、笑いがひらく――バロ・デヴェルの舞台
言葉を越えて、身体で投げかけられる「わたしたちは誰か？」という問い

重力を忘れたかのように身体が宙を舞い、舞台空間は観客の目の前で次々と姿を変えていく――フランスとカタルーニャのサーカスアーティスト、俳優、ダンサー、ミュージシャン、陶芸家など、分野の異なるメンバーによって 2000 年に結成されたカンパニー「バロ・デヴェル」。サーカスを出発点に、笑いと緊張、危うさと美しさが同時に現れるスケールの大きな舞台は、多くの人々を魅了し今熱い注目を集めています。

今回日本初演となる本作は、陶芸をテーマにした３部作の第 1 作目で、2024 年のアヴィニョン演劇祭で初演され大きな話題を呼びました。粘土や陶器などさまざまなオブジェは形を変え、年齢もバックグラウンドも異なる 12 人のアーティストは国境や言語、人種といった枠を軽やかに飛び越え「共に生きること」を身体で描き出します。アクロバティックなサーカスのムーブメントやダンス、思わず笑みがこぼれるユーモラスな瞬間が重なり、気づけば夢の中にいるような時間が流れ…。私たちの深層にある感覚を呼び覚ます体験は、混沌とした世界に向き合いながら「これからやってくる世界」へと共に踏み出すための小さな勇気を手渡してくれます。

カミーユ・ドゥクルティ　Camille Decourtye
ブライ・マテウ・トリアスとともにバロ・デヴェルを立ち上げ、これまで発表した全作品の作・パフォーマーを務める。幼少期を馬と共に過ごし、旅した経験から国立サーカス学校に入る。現在も動物たちとの繋がりと協働を続けている。

ブライ・マテウ・トリアス　Blaï Mateu Trias
バロ・デヴェルをカミーユ・ドゥクルティとともに立ち上げ、作・パフォーマーとして全作品の創作に携わる。クラウンの両親のもとにバルセロナで生まれ、複数のサーカス団での経験を通して言語の交差性に興味を持ち、16 歳でサーカスアートを学ぶため渡仏。自身のリズムと空間感覚がユニークな振付作品を生み出している。

Photo by François Passerini

＊各日開演 25 分前よりプレトーク

＊アーティストトーク：5 月 6 日(水・休)終演後 (無料・要予約)
登壇： 近藤良平(振付家・ダンサー、コンドルズ主宰、彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督)
カミーユ・ドゥクルティ、ブライ・マテウ・トリアス　　モデレーター：石神夏希

◆バロ・デヴェル ワークショップ　5月7日(木)10～12時　静岡芸術劇場 リハーサル室　参加費：1,000円(要予約・先着順)

演劇｜日本初演　＊BIOTOPE 招聘プログラム

『マライの虎―ハリマオ』 Tiger of Malaya

日時：4 月 25 日(土) , 26 日(日)
各日 13:00 開演
会場：静岡芸術劇場

上演時間：90 分(休憩なし)　　全席指定
英語、マレー語、日本語、中国語上演／
日本語・英語字幕

台本：アルフィアン・サアット
演出：モハマド・ファレド・ジャイナル

製作：テアター・エカマトラ
共催：国際交流基金

歴史はどう演じれば「正解」なのか？
シンガポール人と日本人でリメイクする「ハリマオ」神話

1943 年、戦時中の日本で制作されたプロパガンダ映画『マライの虎』。“ハリマオ(虎)”と呼ばれた谷豊は、イギリス領マレーで義賊となり、金持ちの華僑やイギリス人から金品を奪っては貧しい人々に分け与え、第二次大戦中は日本軍のスパイとして暗躍しました。その半生を日本人ばかりで演じた映画を、シンガポールと日本の俳優たちがリメイクするプロセスを追う、鋭くもコミカルな演劇作品。国籍も言語も経験も異なる俳優たちは、自分なりの切実さで歴史を「正しく」演じようと奮闘しますが、そのやりとりはどこかトンチンカン。誰が誰を、どう演じるのが正解なのか。いろいろな「正しさ」がエンドレスにすれ違っていきます…

アルフィアン・サアットは、多民族多言語国家シンガポールでも話しにくいアイデンティティや歴史や政治といったテーマを独特のユーモアで演劇化し、シンガポールの観客たちをほろ苦い笑いの渦に巻き込んできました。多民族多言語演劇の最前線を走り続けている人気劇作家がテアター･エカマトラ創立 30 周年を記念して書き下した本作では、強烈なアイロニーが観客の頭と体を何重にもよじらせます。

アルフィアン・サアット　Alfian Sa'at

© Rachel Ng

劇団ワイルド・ライスの座付き作家。詩、短編小説、戯曲など幅広い分野を執筆し、主な著作に『荒ぶる時(One Fierce Hour)』『記憶喪失の歴史(A History of Amnesia)』『クーリング・オフ・デイ(Cooling Off Day)』『マレー素描集(Malay Sketches)』などがある。ゴールデン・ポイント詩賞(2001 年)、国立芸術評議会若手芸術家賞を受賞。シンガポール文学賞に複数回ノミネートされている。また、ライフ演劇賞では『ランドマークス』(2004 年)、『ナディラ』(2010 年)、『ホテル』(2016 年)などの作品で最優秀オリジナル脚本賞を 4 度受賞している。

モハマド・ファレド・ジャイナル　Mohd Fared Jainal

© A.Syadiq

ビジュアルアーツと舞台芸術の両方を探究する領域横断的な作品に取り組む。オープン大学／ラサール芸術大学にて芸術学修士(デザイン)を取得。演出家、パフォーマー、ビジュアルアーティスト、舞台美術家として、シンガポールの様々なアート団体と幅広くコラボレーションする。ストレーツ・タイムズ・ライフ！演劇賞、BOH キャメロニアン芸術賞など、数々の受賞歴を持つ。ビジュアルアート・コレクティブ「ネオン・タイツ(neontights)」の創設メンバーであり、2013 年から 2023 年までテアター･エカマトラの芸術監督を務めた。また、マレー遺産センター(MHC)のコンサルタント業務に携わるほか、スクール・オブ・ザ・アーツ・シンガポール(SOTA)で教えている。ゴー・チョクトン青年功労賞受賞者。

＊各日開演 25 分前よりプレトーク
＊アーティストトーク：4 月 26 日(日)10:30〜11:30、カフェ・シンデレラにて(参加費：1000 円・要予約)

ダンス・演劇｜日本初演　＊BIOTOPE 招聘プログラム

『マジック・メイド』　Magic Maids

photo by Bernie Ng, courtesy of Esplanade – Theatres on the Bay, Singapore

日時：4 月 25 日(土) , 26 日(日)
　　4 月 29 日(水･祝) 各日 16:00 開演

会場：静岡県舞台芸術公園
　　稽古場棟「BOX シアター」

上演時間：80 分(休憩なし)　全席自由（整理番号順）
英語上演／日本語字幕

コンセプト・創作・ドラマトゥルギー・出演：
　　アイサ・ホクソン、ヴェヌーリ・ペレラ

製作：ムーゾントゥルム劇場
共催：国際交流基金

「ほうき」がつなぎ、解き放つ、過去と現在の女性像

フィリピン出身のアイサ・ホクソンとスリランカ出身のヴェヌーリ・ペレラは、ジェンダーや労働、ナショナリズムの暴力性に焦点をあてた作品で、国際的にも高い評価を得ているパフォーマンス・アーティストです。多くのケア労働／家事労働者を海外に送り出す地域を出自とする２人は、そうした女性労働者たちの声を集め、「ほうき」を共通のモチーフに、魔女狩りに象徴される家父長制と、現代の移民によるケア労働／家事労働の搾取の構造を重ね、女性の身体に刻まれた歴史と現在を掘り起こします。

舞台で繰り返される「掃く」動作は、女性の身体に押し付けられてきた役割や沈黙を可視化し、「ほうき」は次第に抑圧の象徴から、抵抗と連帯を生み出す存在へと変容していきます。皮肉とユーモアを帯びた身振りや観客に向けられる語り。その抵抗のかたちは特定の立場や経験に回収されることなく、観る者の身体感覚に触れ、既存の価値観を問い直す反逆の儀式として共感を呼び起こします。

アイサ・ホクソン　Eisa Jocson

フィリピン・ラウニオンを拠点に活動する振付家、ダンサー、ヴィジュアル・アーティスト。フィリピンのサービス・エンターテイメント産業における労働者に焦点をあて、ジェンダーと感情労働、移民などの関わりを探究するパフォーマンス作品を発表している。代表作に、『Death of the Pole Dancer』、『Macho Dancer』、『HOST』など。ベルリンの Tanz im August、横浜の TPAM、チューリッヒの Zürcher Theaterspektakel をはじめとするアジアやヨーロッパの国際フェスティバルに参加。受賞歴にフィリピン文化センター「13 Artists Award」(2018)、「Hugo Boss Asia Art Award」(2019)、「Tabori Award International」(2023)など。

ヴェヌーリ・ペレラ　Venuri Perera

スリランカ・コロンボ出身の振付家、パフォーマー、キュレーター、教育者。暴力的ナショナリズム、家父長制、移民、植民地の遺産、階級といったテーマに基づく作品を創作し、世界各地のフェスティバルやシンポジウムに参加。韓国のチョン・グムヒョンや日本の手塚夏子などの振付家との緊密なコラボレーションも行う。SPAC で上演された『ペール・ギュントたち ～わくらばの夢～』(ユディ・タジュディン演出、2019 年)に出演。現在はアムステルダムとコロンボを拠点に活動している。

＊各日開演 25 分前よりプレトーク

演劇｜SPAC レパートリー

『王女メデイア』MEDEA

『王女メデイア』Photo: Uchida Takuma

日時：5 月 2 日(土) , 3 日(日・祝)
4 日(月･祝) , 5 日(火･祝)
6 日(水･休) 各日 19:00 開演
会場：駿府城公園 紅葉山庭園前広場

台本・演出：宮城聰
原作：エウリピデス
音楽：棚川寛子
製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター

上演時間：90 分(休憩なし)　全席指定（予定）
日本語上演 ／英語字幕

主催：ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会

世界を巻き込む熱狂、16 年ぶりに静岡へ
語り・動き・生演奏が導く、〈祝祭〉としてのギリシア悲劇

『王女メデイア』は 1999 年の初演以来、世界 20 都市以上で上演を重ね、宮城聰の代表作の一つとして国境や文化圏を超え高い評価を獲得してきました。2025 年のロンドン公演においても、時代や社会を越えて突き刺さる鋭い問いと衝撃が、観客を熱狂の渦へと巻き込みました。

本作では、古代ギリシアの英雄イアソンの妻メデイアによる壮絶な「子殺し」の悲劇を、明治時代の日本に舞台を置き換え、歓楽街の座興として演じられる〈劇中劇〉に再構築しています。宮城演出の真骨頂である「二人一役」、〈語り〉と〈動き〉を分離する手法が用いられ、セリフを語るのはすべて男、その言葉に動かされる女たちという構造が物語の異様さを際立たせます。語り・動き・生演奏が三位一体となって進行する舞台は、しかしクライマックスで言葉からの支配を覆すかのように女たちの反乱へと転じます。悲嘆、裏切り、復讐といった人間の激情の先に宮城が描きだすのは、誰しもが避けることのできない「老い」というテーマ。日本では実に 16 年ぶりとなる再演は、時を超えて強靭なメッセージを放ち続ける本作の真髄を体感できる稀有な機会となります。

「これは、かつて見たことのない 『メデイア』である。演出家の宮城聰は、古代の傑作を独自に解釈し、
斬新な色彩で彩色し、まばゆいばかりの宝石を創り上げた。これは単なる物語ではなく、まさに体験である。」
（2025 年ロンドン公演 舞台評 North West End UK より）

宮城聰　Miyagi Satoshi

Photo by Kato Takashi

演出家。1959 年東京都生まれ。東京大で演劇論を学び、90 年にク・ナウカ旗揚げ。2007 年に SPAC-静岡県舞台センター芸術総監督に就任。自作の上演とともに世界各地から現代社会を鋭く切り取る作品を紹介、また中高生鑑賞事業や SPAC 演劇アカデミーなどの育成活動にも力を注ぐ。代表作に『王女メデイア』『マハーバーラタ』『アンティゴネ』など。近年はベルリン国立歌劇場などでオペラの演出も手がける。19 年仏芸術文化勲章シュバリエ受章。23 年にグランシップ館長就任。25 年 7 月、対談集『演劇脳とビジネス脳』(西村真里子編)を出版。

SPAC 新作｜ワーク・イン・プログレス公演

『さあ環境に抵抗しよう、死に抵抗しよう。そうさ生に抵抗するのさ、』

Resist Confinement, Resist Death—We Will Renounce This Fate

（タイトル出典）袴田巌著・袴田巌さんを救う会編『主よ、いつまでですか』1992 年 新教出版社 113 頁より

日時：4 月 25 日(土)・26 日(日) 16:30 開演
29 日(水･祝) 13:30 開演
会場：静岡県舞台芸術公園
屋内ホール「楕円堂」

構成・演出・振付：下島礼紗

製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター

上演時間：60 分(予定)

日本語上演

論理では捉えきれない社会と人間の不条理な実像を、肉体表現を介し見つめなおす作品の発表を続けてきた気鋭の振付家・下島礼紗。SPAC との初タッグで新たに取り組む本プロジェクトで、下島は、1966 年に起きた静岡県一家４人殺害事件で再審無罪が確定した袴田巌氏の、48 年間にも及ぶ極限の独房生活の中で出現した「歩行」に着目しました。袴田氏の 48 年間という時間や心的状態を表現／追体験することの不可能性に向き合い、SPAC 俳優と共に「歩行」を試みます。その創作プロセスに触れる機会として、ワーク・イン・プログレス公演を実施します。

下島礼紗　Shimojima Reisa

ケダゴロ主宰・振付家・ダンサー。1992 年生、鹿児島県出身。7 歳から地元鹿児島でよさこい踊りを中心に活動。桜美林大学在学中に木佐貫邦子にコンテンポラリーダンスを学ぶ。2013 年「ケダゴロ」を結成し、以降、全作品の振付・構成・演出を行う。“「ダンス」とは「世の中を解釈する為の一つの手法」である。”という理念のもと、国内外で論争を生む作品を発表。近年ではソロ活動も並行して行い、アジアを中心に海外アーティストとの国際共同制作作品を多数発表。

©草本利枝

BIOTOPE 【主催：国際交流基金 、SPAC-静岡県舞台芸術センター】

◆東南アジアと日本の劇作家のためのインキュベーション・プログラムが始動！

SPAC-静岡県舞台芸術センターは、国際交流基金との共催により、東南アジア諸国との舞台芸術における交流事業「BIOTOPE（ビオトープ）」を始動します。2026年から3年間にわたり行われ、演劇祭の期間中には、東南アジア諸国と日本の劇作家が交流しながら創作に取り組む「BIOTOPE―劇作家のためのキャンプ」を中心に、東南アジア諸国の舞台芸術作品を上演する招聘プログラムのほか、招聘アーティストによるワークショップや交流イベントなどを実施します。SPACの創作拠点である「静岡県舞台芸術公園」をひとつの実験場として、異なる文化的・社会的背景をもつ劇作家／シアター・メイカーたちが定期的に集い、対話と実践を重ねていきます。

＊詳細は「BIOTOPE」のプレスリリースをご参照ください。

◆参加劇作家（予定）
アドリアーナ・ノルディン・マナン（マレーシア）、ゲラン・ヴァレラ・ルアールカ（フィリピン）
チャトゥラチャイ・シーチャンワンペン（タイ）、ジャン・バプティスト・プー（カンボジア）
西尾佳織（日本）、山田カイル（日本）、ショヒフル・リドイ（インドネシア） ※名前アルファベット順

ディレクター： 石神夏希（劇作家／SHIZUOKAせかい演劇祭2026 アーティスティック・ディレクター）
プロデューサー： 前原拓也（SPAC）
コラボレーター： マルコ・ヴィアナ（ザ・ヴァージン・ラボフェスト 共同ディレクター、劇団タンハラン・フィリピノ アソシエイト・アーティスティック・ディレクター）
ムハンマド・アベ（インドネシア・ドラマティック・リーディング・フェスティバル（IDRF）ディレクター）
ファシリテーター：山口惠子（俳優、シアターメイカー）

《BIOTOPE―劇作家のためのキャンプ》
7名の劇作家が舞台芸術公園に滞在し、演劇祭作品の観劇やワークショップに参加。
静岡でのリサーチ、ディスカッションを通して、それぞれが今後3年間で掘り下げるテーマを探っていきます。

《招聘プログラム》
『マライの虎―ハリマオ』（P7参照）
『マジック・メイド』（P8参照）

《演劇実践者向け ワークショップ》
アルフィアン・サアット ワークショップ
4月27日（月）10:00～13:00 舞台芸術公園 稽古場棟「稽古場1」
アイサ・ホクソン／ヴェヌーリ・ペレラ ワークショップ
4月27日（月）15:00～18:00 舞台芸術公園 _稽古場棟「稽古場1」
料金（上記いずれも）：一般 1,500円 / U-25 1,000円（要予約・先着順）

《一般向け ワークショップ》
『マジック・メイド』ワークショップ「ほうき学」入門
4月29日(水・祝)10:00～12:00 会場：舞台芸術公園 稽古場棟「稽古場」
講師：アイサ・ホクソン、ヴェヌーリ・ペレラ
参加費：1,000円(要予約・先着順) 対象：高校生以上

《公開イベント》
『せかいの劇作家がふるまうランチ会』
5月2日（土）12:00-13:30 舞台芸術公園 せかいの劇場ミニミュージアム「てあとろん」
参加費：1,000円(食事付・要予約)

ストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡 2026」
Street Theatre Festival STRANGE SEED SHIZUOKA

5月3日(日･祝) ～ 5月5日(火･祝)

会場：駿府城公園、青葉シンボルロードなど静岡市内

それは、日常と非日常のあわいに現れる
“ストリートシアター”のフェスティバル
https://strangeseed.info

主催：ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会

コアプログラム：

コンテンポラリーダンス｜国際共同制作

『Peace & Quiet（ピース & クワイエット）』 鈴木ユキオ x Stopgap Dance Company 国際共同制作プロジェクト Beyond!

5月3日(日･祝)～5日(火･祝)　各日17:30開演
会場：松坂屋静岡店 北館屋上
振付・演出：鈴木ユキオ

振付家・鈴木ユキオと、障害のあるダンサーが所属するイギリスのStopgap Dance Companyとの国際共同制作作品。異なる身体と表現が響きあうインクルーシブダンス。

主催：鈴木ユキオ x Stopgap Dance Company国際共同制作実行委員会、ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会
共催：独立行政法人国際交流基金、Stopgap Dance Company
共同制作：鈴木ユキオ x Stopgap Dance Company国際共同制作実行委員会、独立行政法人国際交流基金

移動型パフォーマンス

『One Shot（ワンショット）』
5月3日(日･祝)･ 4日(月･祝)14:30開演
5日(火･祝)14:00開演
静岡市街地から駿府城公園までの移動型
製作：Collectif Protocole(コレクティフ・プロトコル)

公共空間で即興的パフォーマンスを行うフランスのジャグリング集団、コレクティフ・プロトコル。その場のプロトコル(手順・ルール)に従い、即興によるダンスや演技、生演奏が交差するパフォーマンス。

オフィシャルプログラム：

『Are You ALICE?』 ひびのこづえプロジェクト ダンスパフォーマンス 中嶋美虹×猪野なごみ×小野龍一
『誘影灯』 Co.SCOoPP
『末待奉祭（まつまつたてまつりまつり）2026』 大熊隆太郎
『NEW HERO～いざ参らん！ 呉服町・ゴールデン・大名行列！！～』
　さんぴんと静岡のニューヒーローズ feat.ジンタらムータ
『ベンチ』 ゼロコ
この他、オープンコールプログラム、なんだ？ワークショップなどを開催。

『うなぎの回遊 Eel Miguration』公演前後のひとときに

フェスティバル café & bar ― Festa Brazil(ブラジル・ナイト)

会場：舞台芸術公園 せかいの劇場ミニミュージアム「てあとろん」

4 月 25 日(土)、26 日(日) 15:00～22:00／29 日(水・祝) 12:00～22:00

舞台芸術公園で、アーティストと観客が出会い、余韻を分かち合うひととき。『うなぎの回遊』終演後は、ブラジル音楽に包まれながらブラジルコーヒーやフェイジョアーダなどを味わう Festa Brazil を開催。観劇の熱をそのままに、食と音楽で旅する夜をお楽しみください。

Photo by Makita Natsumi (F4,5)

広場トーク Symposium

会場：駿府城公園 東御門前広場

5 月 3 日(日･祝)16:30～18:00

◆この社会で演劇は何に応答できる?

ジェイミー・カタニャグ フィリピン教育演劇協会(PETA)アーティスティック・ディレクター

石神夏希 SHIZUOKA せかい演劇祭 2026 アーティスティック・ディレクター

ほか

5 月 4 日(月)16:30～18:00

◆劇作家が集まるとどんな「せかい」が生まれる?

マルコ・ヴィアナ ザ・ヴァージン・ラボフェスト 共同ディレクター

ムハンマド・アベ インドネシア・ドラマティック・リーディング・フェスティバル ディレクター

石神夏希 SHIZUOKA せかい演劇祭 2026 アーティスティック・ディレクター

PLAY！PLAY！PLAY！ガーデン

交流スペース「Roji Mingle（ロジ ミングル）」

5 月 3 日(日・祝)～6 日(水・休)各日 11:00～18:30

会場：駿府城公園 東御門前広場

駿府城公園・東御門前広場に、「アジアのような路地」をコンセプトとした交流スペースが出現。屋台や家庭料理をふるまうキッチン、カラオケスナック、DJ ブースが立ち並び、路地のような風景を生み出します。人と文化、声と匂いが交差し、演劇祭の中に“もうひとつのアジア都市”が立ち上がります。周辺には静岡の魅力あふれるグルメが集結するマルシェも展開。路地と市場を行き交いながら、味覚でも演劇祭をお楽しみください。

ディレクター：スノドカフェ代表 柚木康裕

お茶摘み体験 in 舞台芸術公園

新緑美しい舞台芸術公園で、お茶摘み体験♪

新茶の季節ならではのイベントです。

5 月 2 日(土)9:30～11:30

集合場所：舞台芸術公園　せかいの劇場ミニミュージアム「てあとろん」

参加費：一般 1,000 円、高校生以下 500 円、未就学児無料(要予約)　協力：ChaChaCha

チケット　Tickets

一般前売り開始：3 月 14 日(土)10:00 / SPAC の会 会員先行予約開始：3 月 7 日(土)10:00

	『王女メデイア』	『うなぎの回遊 Eel Migration』 『マライの虎―ハリマオ』 『マジック・メイド』 『Qui som? ―わたしたちは誰？』	『さあ環境に(略)』 (Work-in-progress)
一般	7,000 円	4,600 円	1,100 円
SPAC の会	5,900 円	3,900 円	900 円
静岡県民割	5,000 円	–	–
U25／大学生・専門学校生	2,200 円	2,200 円	–
高校生以下	1,100 円	1,100 円	–
障がい者割引	4,900 円	3,200 円	–

〈ストレンジシード静岡 2026 コアプログラム〉
◉『Peace＆Quiet』 一般：3,000 円　SPAC の会：2,500 円　高校生以下・障がい者割引：1,100 円
◉『One Shot』 チケット販売はございません。(予約不要／観覧無料)

お取り扱い：SPAC チケットセンター
TEL：054-202-3399 (10:00～18:00／休業日を除く)
https://festival-shizuoka.jp/ticket
静岡芸術劇場チケットカウンター (10:00～18:00／休業日を除く)

Access

ゴールデンウィークの日中は、渋滞や公共交通機関の混雑が予想されますので、時間に余裕を持ってお越しください。

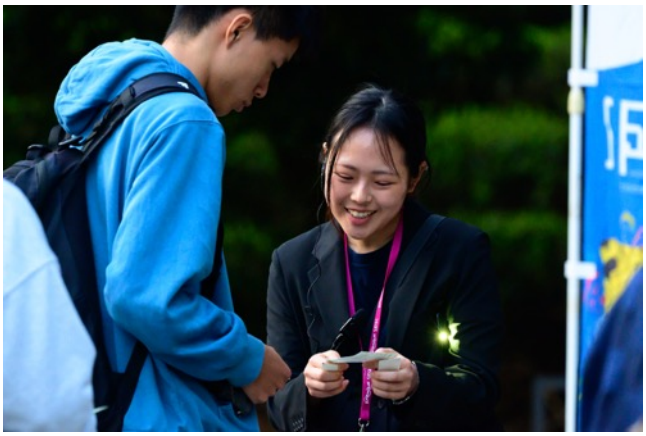
静岡芸術劇場 (静岡市駿河区東静岡 2 丁目 3-1)
JR「東静岡駅」南口から徒歩約 5 分。静岡鉄道「長沼駅」から徒歩約 12 分。

静岡県舞台芸術公園 (静岡市駿河区平沢 100-1)
路線バスもしくは無料チャーターバスをご利用ください。

駿府城公園 (静岡市葵区駿府城公園 1-1)
JR「静岡駅」北口から徒歩約 15 分。静岡鉄道「新静岡駅」から徒歩約 12 分。

松坂屋静岡店 北館 (静岡市葵区御幸町 10 番地の 2)
JR「静岡駅」北口から徒歩約 3 分。

Photo by MAKITA Natsumi (F4,5)



■ SPAC(Shizuoka Performing Arts Center)

公益財団法人静岡県舞台芸術センター(Shizuoka Performing Arts Center：SPAC(スパック))は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997 年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007 年より宮城聰が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。2025 年に設立 30 周年を迎え演劇を通して磨き上げてきた「人」と「技術」を、企業やコミュニティと連携しながら、福祉・観光・人材育成など地域の活性に活用するべく活動を発展させています。

お問い合わせ　Contacts

SPAC-静岡県舞台芸術センター　〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡 2 丁目 3-1
TEL：054-203-5730　FAX：054-203-5732　E-mail：mail@spac.or.jp

◆「SHIZUOKAせかい演劇祭 2026」の最新情報は・・・
プレスリリース、SPAC 公式サイト、演劇祭 2026 特設サイトにて、随時お知らせいたします。
ＳＰＡＣ公式サイト　https://spac.or.jp
演劇祭特設サイト https://festival-shizuoka.jp

@_SPAC_　SPACshizuoka　YouTube　@spac_shizuoka